



森ボラ 通信

第 35 号 2005 年 4 月 20 日発行
北海道森林ボランティア協会
札幌市中央区南 2 条西 2 丁目金市館ビル 8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/

幹事会日程変更

ゴルフ場作業と重なるため、5月の幹事会は5月11日（水）に変更します。

有明植樹イベントのお知らせ

建設会社 29 社の 2 代目グループ「札幌二青会」の申し入れを受け、有明第二で合同植樹会を行います。当日午前中は通常の森林作業を行います。イベント終了後は場所を移動し、バーベキューによる懇親会を行います。今後の発展も期待できる行事に多くの会員の参加を期待します。

■開催日：5月27日（土）

■スケジュール： 13時～ 植林作業
15時～ 竹の子狩り
16時～ バーベキュー（札幌ふれあいの森にて）

シージーシーより軽トラック寄贈

株式会社シージーシー（社長：横山清氏）より、作業用軽トラックを寄贈していただきました。パワーキャリア他諸々の道具類運搬や、ホダ木の運搬などにも活躍してくれそうです。また、「北海道森林ボランティア協会」の名前が多くの人目に触れる宣伝効果も大いに期待できます。この車の愛称を募集します。いずれフクロウマークも入れて、お化粧し直ししましょう。



賛助会員に 7 社

今年度より企業・団体を対象に賛助会員の募集を開始したところ、早速以下の 7 社の入会がありました。心強い応援団に応え、より社会にアピールできるインパクトある活動を行いましょ。

- ┆ 山本機械株式会社
- ┆ 株式会社シージーシー北海道本部
- ┆ 有限会社 北海道人材バンク
- ┆ エルム建設株式会社
- ┆ 株式会社 橋本川島コーポレーション
- ┆ 株式会社 須田製版
- ┆ 日本水産株式会社 札幌支社

リンゴ園支援チーム結成

事前アンケートの結果、リンゴ園支援チームが決定しました。今年度は以下のメンバーを中心にリンゴ園作業を行います。尚、人員調整のためメンバー以外の会員にも参加を要請する場合がありますのでご協力をお願いします。

【支援チームメンバー／16名】麻生・石村・伊東・榎本・小野寺・菊池（敏）・菊池（美）・芝・杉本（茂）・杉本（則）・高橋（静）・附田・虎谷・畑・古内・山原

第三期 会員総会

4月20日（水）出席会員44名。委任状29名、計73名となり、成立しました。横山理事長の挨拶の後直ちに議案の審議に入り、2号議案で一部先送した数字を変更した部分、3号議案での字句の変更および4号議案で理事として西野悌三さんを承認するなど、一部変更部分もありましたが、各号議案が承認されました。

西野第二 西野第三町内会会長に挨拶

4月14日（木）。札幌市本木さんと、酒井代表幹事と高野で西野第三地区の住人安保さんの案内で町内会長黒田泰司さんに西野第二の風害木整理を始めるにあたり挨拶をしてきました。現場のまだ残雪が1m余りもあり、23日、25日の作業は無理の状況にありました。総会の折に中止を決めようとおもいました。

4月幹事会

4月11日（月）、4月20日の総会に向けての議案作成を行いました。決算および予算の勘定科目とか、前期と対比できる表現をすとか、細かいところまで調整しました。特には定款との関連で、総会の議決権者をどのように規定するかについて議論しました。「資格喪失」の条件が“2年間会費未納者”となっている点が不合理であると認識が一致しましたので、“当該年度会費の未納入者”とすることに決しました。

【出席者】加治・鎌田・酒井・村上（昭）

神宮の森視察

4月4日（月）参加18名。今年度より作業に着手する神宮の森を視察しました。宮の森スキー場駐車場より尾根筋にとりつき、高圧送電鉄塔を目指して登りました。樹木は太く高く、まさに銘木一步前の様相で、さすが「神宮の森」でした。天然林が開都以来保存された結果、あと100年もすれば極相になると思われました。マカバ、センノキ、ミズナラ等市場価値の高い大木も目につきました。営林目的の森林ではないにしても嬉しいことでした。

鉄塔が連なる尾根筋は、作業道があるらしく伐開されておりました。300haの内、ほんの片隅を見ただけですが、景色の素晴らしい地点が2~3ヶ所あり、尾根筋をたどる遊歩道を作り藻岩につないで市民に親しまれる森になることを確信しました。

残雪まだ深い急斜面を、約2時間のハイペースで歩き切りました。息を切らしながらでしたが、高齢者（？）にしては参加者の健脚は見事でありました。

澄川



3月30日（水）、参加13名。午前中に前回の作業でつくったホダ木のうち、有明小学校提供分200本を道路脇まで運び上げました。緩んだ雪の急斜面でのつらい作業が、全員縦列の手渡し作業で楽しさに変わりました。掛け声や笑い声が力となって、吹きつける雪は火照った頬を心地良く冷やします。午前中に合わせた呼吸は午後も狂うことなく、大きなシラカバの倒木はあっという間に解体され、まことに見事な仕事振り。ホダ木は有明小学校のトラックと加治さん酒井さんの車3台に積み込んで、無事小学校に届けられました。

3月31日（木）、前夜からの積雪と雪模様にもかかわらず8名が集まりました。この日のメインはたいまつでの燃焼実験。たいまつはカラマツの丸太材にチェーンソーで空気穴となる切り込みをいれたもの。わずかな切り込みの違いで燃え方に差が出ます。側面に切り込みを入れたり、七輪のような窓をつけたり、その場で様々なアイデアが試されました。既に「丸太コンロ」として販売もされており、産学連携で独自のデザイン開発に取り組んでいる例もあります。備蓄がきき、災害やキャンプ時に利用できます。目の前の風倒木の有効利用を図るには、現実的で意義ある方法ではないでしょうか。更に改良を進めましょう。（柴田記）

札幌市役所訪問

3月29日（火）、ゴルフ場から足を伸ばして、札幌市を訪問しました。17年度の計画の説明および諸々の注意事項を確認しました。札幌市内部の機構改革があり、新年度から配置転換等がありまして、ボランティア担当の窓口が設定されます。いろんな場面でボランティアを活用する方向にあることでの改革です。特に西野第二に取り組むにさいして、市からの承認書の発行および町内会長への挨拶にも高本さんと一緒に出向くことになりました。

定山溪ゴルフ場訪問

3月29日（火）加治、酒井、高野の3名で訪問。協定書についてすりあわせをしてきました。予算規模としては300万円。17年度はこの範囲で行うことがわかりました。正式な発注書を受領しました。とりあえず130本程度ですが、作業進行につれて追加発注を調整することになり、最終的には150本を越える感じです。

二世経営者グループ

3月28日（月）札幌市の土建業者の内、後継二世経営者の会「二青会」の幹事長でありますアイケン工業(株)岩本行弘社長が来協されまして、森林ボランティア活動の協力を要請されました。会員会社29社で希望活動に植林、キノコ・山菜狩り、清掃・美化等々、われわれの活動と共通する部分がありまして、5月に植林をやりたい。ということで打合せをしました。来協のきっかけはインターネットを見てきた。ということで、ホームページの威力を再確認する出来事でした。アイケン工業とは既に縁がありまして、先年フクロウの森に生ゴミ堆肥の試験使用をしましたが、その堆肥の生産者がアイケン工業でした。

澄川で作業始め

3月26日（土）参加13名。冬眠も終わり、いよいよ山作業の再開です。冬に逆戻りかと思われた前日の吹雪もおさまり、時折ちらつく雪もあれば春の日差しが描く雪上の木の影が美しい瞬間もあり、変化に富んだ日和。巣箱かけ・ホダ木とり・樹液採取とメニューも豊富でした。巣箱をかけるとすぐに、シジュウカラ（？）の番いが現われました。早速新築物件を見に来たのでしょうか。窓にとまって住み心地を確かめていました。違った種類の囀りも賑やかに聞こえたので、この春の澄川はベビーブームに沸くかもしれません。

例年ではシラカバの樹液が採れる時期ですが、今年の寒さで時期がずれたようです。シラカバより寒い気象条件で採取可能なイタヤの樹液がたっぷり採れました。カンバとカエデに特有の早春の樹液は採取期間がたった一ヶ月ほど。シラカバの開葉と共に止まるそうですが、溢出機構は謎に包まれ「不思議の水」と言われます。山中さんはウイスキーの水割り用に持ち帰りました。不思議の水で割ったお酒はどんな味だったのでしょうか。

ブランクを感じさせない働きで、終わってみると雪に刺さったホダ木が思いがけず多く、我々の中にも待ちわびた春への喜びが漲る力となって溢れたのだと感じられる喜びの初日となりました。（柴田記）

リンゴ園

3月22日（火）、参加8名。枝処理を行いました。残雪多量で枝処理作業は大きな支障はありませんが、施肥の穴掘はかなり遅れることになりそうです。

新入会員紹介

石村剛志・富樫豊子・坂田広吉・村井悦子